

令和3年度 上田市立 長小学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価				
かしこく きよく たくましく		◎「かしこく」 自分をふりかえり よく考える子ども (知) ◎「きよく」 友だちとかかわり 思いやりのある子ども (徳) ◎「たくましく」 すずんで取り組む ねばり強い子ども (体)	・「今だからできる。今でもできる。何でも挑戦！」を掲げ、学校行事や学級活動等を工夫し、職員全員で実現に向けて取り組むことができた。その中で、子どもたちの①学校が楽しいと感じている姿②粘り強く頑張る姿③友だちとやさしく係わる姿が見られるようになった。 ・長小学校独自の行事の中で、友だちと関わり支え合いよく考えて行動する姿が見られた。 ・児童一人一人を見ると、目指す子どもの姿に近づけることができたが、集団としての力として高められてない。個の力を集団としての力にしていく方向を考えていく。				
		今年度の重点目標	A	B	C	D	改善策・向上策
		①よく考える力の育成 ②相手に伝える力の育成	・聴く・読む活動の充実 ・相手意識の醸成（誰に・何を）		○		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	意欲が持てる授業	自然・ひと・ものと関わり、問題解決をしていく授業づくり	児童の声を聴き、一人一人に応じた支援の場を作っているか。	・全職員で児童一人一人に係わる体制をつくり、支援を行った。 ・個別学習・課題別学習等学習場を工夫し、一人一人に応じた支援に取り組めた。		○			・一人一人の特性(個性)を理解し、具体的に支援を考え、職員で共有していく場を設ける。 ・職員の専門性を生かしながら、児童の声を聴く場を増やしていく。
			言語活動の充実：自分の考えを、筋道を立てながら自分の言葉で伝える場面をつくっているか。	・発表の場を意識し設定している。「筋道立て」が難しい。 ・低学年はMIMに取り組み、語彙が増え読みの力が伸びた。		○			低学年は、MIMを継続していく。 ・個別指導でも「問い」を大切に指導していく。 ・指導の発言を全て認め、児童が聞き会える学級作り基盤とする。
			児童が見通しをもって主体的に授業に取り組めるような工夫をしているか。	・授業の見通しを持つために「1時間の学習の流れを書き示す」事を授業作りの約束として統一し、児童の学習への安心感に繋がった。		○			・授業の流れを固定し必ず振り返りの時間を設定する ・児童主体の授業作りに向けた研究・研修を行うために、業務を精選し時間を確保していく。
	認め合う学級	自尊感情を育て、自分の存在が認められる学級づくり	一人一人の自信(自尊感情)につながる振り返りの場を設定し、継続しているか。	・振り返りの時間を意識して設定した。「よかったこと」だけの振り返りになることがあり、内容等学習や活動が児童自身と次時に繋がるものにする。		○			・自己評価だけでなく、グループ評価・他からの評価など、評価の方法を工夫し考えていく。 ・振り返りの内容について考えていく。
			友だちとの協働を生み出す活動を設定する～長っ子タイムの充実～に取り組んでいるか。	・長っ子タイムが児童の願いを実現する時間とり、児童が自分たちで活動を考え取り組む姿と意欲ある姿が多く見られた。 ・伝承広場・米作り等児童が協働する場を設定できた。		○			・教師が長っ子タイムの目的を理解し、児童の願いを引き出す授業展開について考え合う場を設定する。 一協働を生み出す活動が体験的な活動にとどまらず展開できるように、教師自身が見通し、つきたい力も共有できる場を設定
			子どもと対話し、子どもの様子を的確につかむために教育相談を学期に1回行っているか。	・相談週間の中で、児童の思いや問題を聞くことができ、児童との関係作りを生かすことができた。 ・児童の内面に迫る安心して話せる場にする方法を考えた。		○			・日常的に児童が話をできる場を作る。 ・なかよしアンケートの継続。相談時間の確保として、相談週間に位置づけていく。
	開かれた学校	学年を越えた関わりや地域との関わりを広げる学校づくり	家庭・学校・地域へ広がる あいさつ活動を進めているか。	・学級で挨拶活動に取り組み、挨拶する姿は広がったが、校内、全校では、子ども達自ら挨拶したり、また挨拶を返す姿があまり見られず、定着しない。		○			・挨拶の大切さを子ども達に伝え、職員も一緒に挨拶活動に取り組む。児童会が中心となり、挨拶への意識を高められるような環境を作っていく。
			学年を越えて関わりあう活動に取り組む工夫をしているか。	・新しい試みとして「縦割り清掃」を行い、学年を越えた関わりや一生懸命清掃に取り組む姿が見られた。		○			・児童主体となる縦割り清掃を目指していく。 ・児童主体の児童会活動・長小祭りを継続していく。
			長自然・歴史(真田)・文化・伝統に学ぶ体験活動や交流活動を取り入れているか。	・1年2年生生活科で自然に触れ、3年は、地域探検、4.5年はコマ作りと地域の方の協力をいただき、充実した活動ができた。中止の場合の対応も必要	○				・コロナ禍であり活動の制限があっても地域の方とできる交流の場や方法を考えていく。 ・クラブ活動に地域講師をお願いしていく。
学校運営	情報の発信	学校だより、学年だより、ホームページ、学校メール等で、学校の様子を知らせているか。	・子どもの姿や日々の様子がくわしく見えるような学年だより、学校だよりと健康に関する保健だよりの作成を心掛け、定期的に配信した。		○			・ホームページを随時更新していく。 ・情報発信内容の精査と、子ども達の姿や学校の様子が変わるようにお便りの充実を図っていく。	
		家庭との連携	連絡帳、電話連絡、訪問などで家庭との連絡を密にしているか。	・怪我や病氣・首から上の怪我については、特に丁寧に、迅速に対応した。児童の様子は、電話・連絡帳で保護者と連絡を取り合いお互いの安心感に繋がった。		○			・保健に関わる内容は、特に丁寧に対応を心掛ける。児童の良さを積極的に伝え、ともに児童の育ちを共有する態度で家庭との連携に努める。
			手引きを基に家庭学習の習慣化を図っているか。	・家庭学習内容を一定、児童一人一人に応じた内容や学習量と工夫することで習慣化してきている。 ・自主学習がマンネリ化し取り組み方の検討が必要		○			・自主学習の方法は継続していく。内容を職員で共有し、取り組みを見直す場を設定しながら、子ども達が意欲をもって自主学習に取り組めるようにしていく。
危機管理	学校メールを活用したり見守り隊と協力したりしながら、児童の安全・安心を確保をしているか。非遵行為研修に取り組んでいるか。	・夏場の熱中症対策による下校指導など子ども達の健康安全対応を考え取り組んだ。 ・非遵行為研修を月一度行なった。		○			・見守り隊の方との給食交流や感謝の会ができなかったが、実施の方向を継続していく。 ・ボランティアが学校に入る環境を検討していく。		

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった